ISSN 1342－632X
国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report
DJI レポート No.105 20160401
国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3－8－24 fax+phone 0466－31－5061 Email：djiarchiv@yahoo.co.jp

東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム開催

1 月 11 日、東北大学災害科学国際研究所で【記録管理学会 NL]No.73 既報】

2016年1月11日仙台で開催された東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムに参加した。

会場の東北大学災害科学国際研究所は、スマホの案内では仙台駅から地下鉄東西線で青葉山下車、駅から3分とあった。JR仙台駅と地下鉄東西線の仙台駅との乗換はそれなりの時間を要したが、乗っている時間は10分足らず。青葉山下車後、地上に出ると、ふわりと広がる空間と案内図が両側に2か所に真新しいキャンパスの雰囲気がある。左手奥に建設中の建物も見え、東北大学災害科学国際研究所の勢いが感じられた。研究所1階の会場は立ち見も出ようかという大盛況、定員200名を上回る参加者があったのだろう。毎年1月11日(3.11の11日にちなんで)にこのシンポジウムの開催が継続していると司会者からの説明があった。東北大学関係者の、大震災への思いの表れと日程編成の意味がとてもよくわかった。

災害アーカイブのイベントなので、日頃なかなか会えない知人と久しぶりにあえて、これはうれしかった。それと今回はこの場で言われる「アーカイブ」の意味もわかった気持ちになれた。ここでいう「アーカイブ」とか、「震災アーカイブ」、「アーカイブ構築」とは、総務省「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクトの用語だと、このイベントに参加してようやく把握できた2。事例報告と討論ではデジタル媒体による各地の「震災誌（アーカイブ）」構築の取組み(次頁総務省プロジェクト図参照)を知ることができたのが、最大の収穫であった。

プログラムは下記の通り。

１）開会の挨拶今村文彦（東北大学災害科学国際研究所所長）

２）特別講演「博物館における教育・研究活動と災害アーカイブの統合－アチェ津波博物館におけるアチェ津波デジタルアーカイブ（DATA）－」トミー・ムリア・ハサン（アチェ津波博物館館長）

３）事例報告「青森震災アーカイブについて」漆戸啓二（八戸市防災危機管理課主事）／「東日本大震災アーカイブ宮城について」菊地正（宮城県図書館副館長）／「浦安震災アーカイブについて」白沢靖知（浦安市立中央図書館奉仕第2係係長）

４）進捗報告「岩手県における震災アーカイブの現状」柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所准教授）／「ポータル（入口）としての国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」」諏訪康子（国立国会図書館電子情報部主任司書）／「社会の減災を指向する災害アーカイブと災害伝承『みちのく震録伝』と震災発生から5年目の災害科学的アプローチー」佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所助教）

５）パネルディスカッション「地域の記録としての震災アーカイブ～未来へ伝えるために～」

【進行】柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所准教授）、パネラー漆戸啓二（八戸市防災危機管理課主事）／菊地正（宮城県図書館副館長）／白沢靖知（浦安市立中央図書館奉仕第2係係長）／佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所助教）／諏訪康子（国立国会図書館電子情報部主任司書）

６）閉会の挨拶諏訪康子（国立国会図書館電子情報部主任司書）

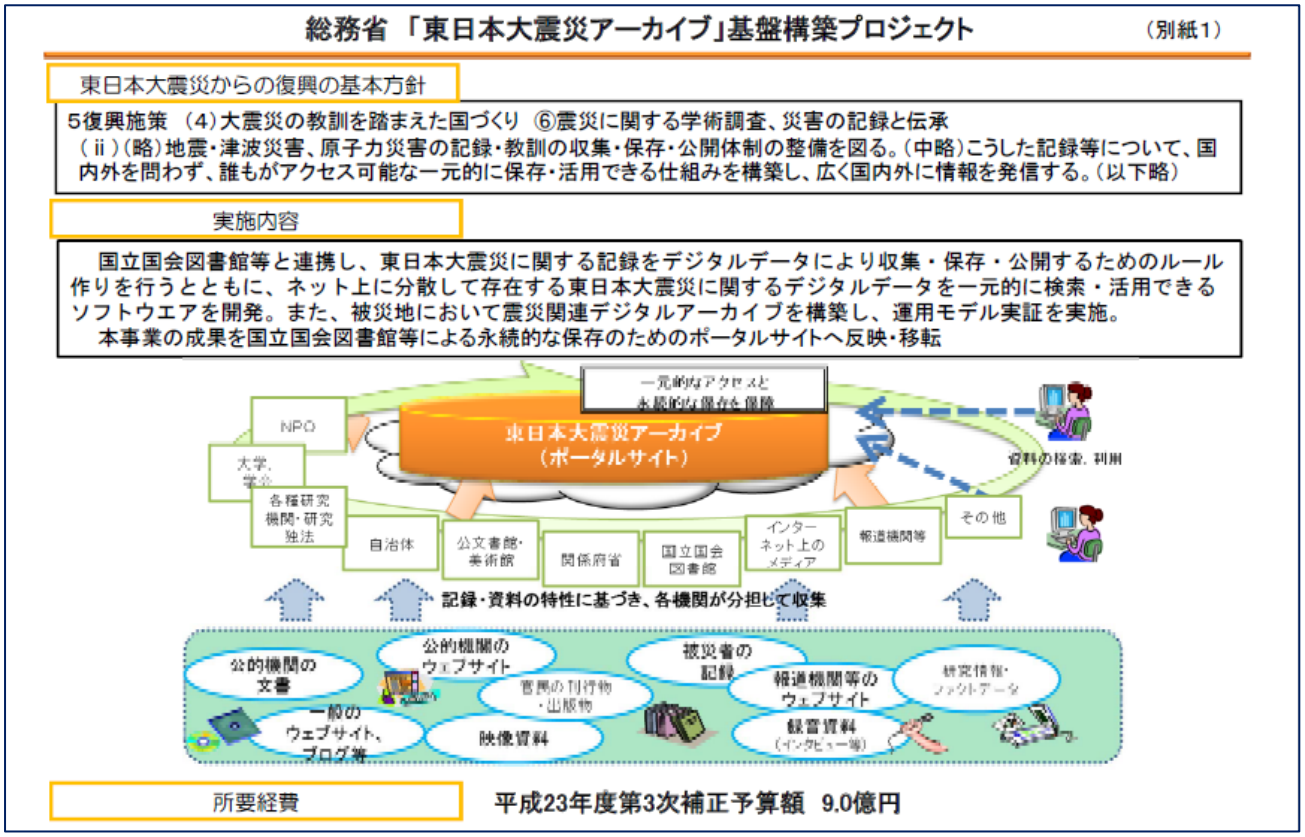
※このイベントは、NHK が「仙台で「震災アーカイブ」のシンポジウム」として報道した。放映は 2016 年 1 月 11 日 20 時 30 分 NHK k10010367981_201601120701_201601120701.mp4
URL:http://www3.nhk.or.jp/news/html/20160111/k10010367981000.html（2016-01-12 確認）

おもな内容 DJI レポート No.105 20160401

東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム……1
資料集 総務省プロジェクト図/法 5 年見直報告書概要…2
視点 昭和 20 年 8 月の公文書焼却命令と実施状況……3
散歩道 懐かしの WAI……4
文献紹介/あしあと……5
消息(訃報)/活動/巻末随想 ……6

【チヨコの注目資料集】

（１）　総務省「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト（別紙１）



http://www.soumu.go.jp/main_content/000139215.pdf　(2016－03－21 確認)

（２）公文書管理法施行５年後見直しに関する検討報告書（案）の概要

Ⅰ　はじめに

○　昨年９月から有識者ヒアリングを含め、６回にわたって委員会において検討

○　本報告書に基づき、政府において具体的な措置が講じられることを期待

Ⅱ　基本的な考え方

○　公文書管理法制定前は、諸外国と比べて我が国の公文書管理体制は脆弱という認識があったが、公文書管理法の施行を経た現在、様々な点における改善が見られる

○　現用文書と非現用文書の管理を一貫したプロセスでつなぐ公文書管理制度をより良いものとするよう、更なる改善のための措置が必要

○　本報告書と「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する基本構想」が相まって、政府全体の公文書管理の体制が充実することを期待

Ⅲ　個別論点と見直しの方向

（１）　現用文書と非現用文書をつなぐ評価選別の在り方について

○　研究者の知見・協力を活用した評価選別の在り方を向上させる仕組み

○　専門職員の育成・配置等、各行政機関における文書管理業務を支援する仕組み

○　学識経験者の知見・協力を活用した文書管理に関する評価・検証を行う試み

○　電子文書の適切な保存・移管のための電子中間書庫の検討、文書管理システムの改善

○　Web・サテライト研修等の多様な研修の実施、コンテンツの充実

（２）特定歴史公文書等について

○　利用者の声も踏まえ、専門職員の増員等、利用サービスの更なる充実

○　「時の経過」を踏まえた利用決定を行っている国立公文書館等の現状や運営体制、諸外国における判断ルール、個人情報の取扱に関する議論の状況等に配慮した利用審査事務・不服審査事務の効率化

○　国立公文書館等の指定に当たって指針となる「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」について、独立行政法人等の視点を踏まえた見直し

（３）地方公共団体における文書管理について

○　地方公共団体の参考となる取組の情報収集・提供や、実務的な課題の支援等、国や国立公文書館が地方公共団体を積極的に支援し、普及・啓発を実施する取組

内閣府ホーム　＞公文書管理＞公文書管理委員会　＞委員会開催状況＞2015 年度＞第 50 回配布資料
http://www8.cao.go.jp/koubuniinkai/iinkaisai/2015/20160323/20160323haifu1-1.pdf　(2016.3.25 確認)

【チヨコの視点】

昭和 20 年 8 月の公文書焼却命令とその実施状況

公文書館関係者の間では、しばしば 1945 年 8 月 20 日前後、全国の役所で公文書を焼却処分したという言い伝えが聞かれる。以下は、焼却命令に背いても公文書を保存した宮崎県庁職員の物語で、柳本見一著『激動二十年』の一節である。宮崎県の統計資料を担当職員が焼却命令に背いても保存し続けようとした決断がその背景にあったことがわかる。なお、20 世紀末のころから、この言い伝えを裏付ける、公文書の焼却を命じる文書が各地で発見されている。

写真は松本市文書館で発見された、所蔵旧役場文書に綴じこまれた昭和 20 年 8 月 18 日付の公文書焼却命令書。本文読み下しと解説は小松芳郎「公文書の廃棄」『松本市文書館だより』第 7 号（平成 12 年 9 月 12 日付）

救われた宮崎県の統計資料

「そんげな、おじもんは、もっちきたらいかん。あとがうるせかいのー」(そんな、恐ろしいものを持ち込んではいけない。あとがうるさいから)。20 年 8 月 16 日の夕方だった。宮崎県宮崎郡清武町船引、農業、増田清蔵は乗用車の中に積んだ山のような書類をのぞきながら、気の毒そうにいった。そばの妻、ツユ（故人）も夫の意見に大きくうなずく。娘ムコの野中吉次県統計課長代理（現・宮崎市末広町）は岐阜の顔を見つめていたが「いまが大事なときなんです。ナントカしてかくしてください」とくりかえし頼んだ。押し問答は何時間かつづいた。野中の懸命の説得に根負けした増田は、ついに折れた。車から運び出されたわしのつづりやパンフレットは納屋のすみにある長持ちへ納められた。うえからワラをかぶせてカムフラージュもした。膨大な資料は地検（明治 16 年）以来の”県勢”を語る統計だった。

その日の正午過ぎだった。野中は谷口知事の呼び出しをうけた。知事室に入ると吉野官房主事もいる。机上の電報用紙をつかんだ知事は、静かに読みはじめた。「コクリヨクヲスイテイデキル、トウケイシリヨウハ、スベテショウキヤクセヨ…ナイムシヨウ」野中はがく然とした。

しかし至上命令とあれば仕方がない。重い足取りをひきずって職場へ帰った。その直後だった。こんどは吉野が野中を呼び、統計資料を疎開させてくれという。「本省からあんな指令がきているが、自分は納得できない。統計資料を全部焼けば、今後宮崎県再建の指針になるデータを失うことになる。君の奥さんの実家は清武町だと聞いたが、今から県の自動車で運んでくれないか」というのが吉野の意見。野中は迷った。資料も大切だが、かくしたことがばれたらどうなる。義父母たちの困惑しきった表情が浮かんでは消えた。

話は日華事変初期にさかのぼる。12 年秋、全国統計主任官会議が東京の内閣統計局で開かれた。所管は資源局、陸海軍の参謀もまじった。会議の趣旨は統計資料を通じての戦争協力だ。「日本はこれから大戦争をやる。そのためには、あらゆる計画史料が必要だ。群の作戦計画になくてはならぬデータの収集と、機密保持に全力をあげてもらいたい」―年老いた参謀将校は一時間にわたって熱弁をふるった。

井上伝次郎統計課長（現・宮崎郡清武町）の手もとに”極秘"〝機密”” 厳秘”” 軍機”と真っ赤な印をべたべたとおした資料が集まったのはそれから。”機密文書取扱い主任”というポストもできた。県下に何才の馬が何頭いるか、日窒課火薬部の生産実績は？片っ端から極秘扱い。知事にも見せられぬ書類もあった。定員 19 人の職員もあいついで応召、戦争末期まで残ったのはわずか 5 人。機密書類だから、家へ持ち帰っての仕事もできぬ。深夜作業が幾日も続いた。半面機密文書取扱い主任の”足”は確保された。当時県庁の平職員で国鉄の一等パスが交付されたのも統計課だけ。野中は機密書類をかかえ、月に幾度も東京―宮崎間をピストン出張した。

20 年 8 月 17 日、県庁横の広場（現・県議会、県警本部）に直径 10 メートル余のごうが彫られた。機密文書の焼却場だ。各課の係員が分厚いパンフレットをオノでさき、つぎつぎに火をつける。疎開史料も焼いた。防空関係のデータもはいになった。野火さながらの煙は一週間余りもたちつづけたという。

増田家へ疎開した統計資料は一ヵ月後、県庁の永年保存文庫へ帰った。もしこの資料がなかったら労作"県経済史”（28 年刊）は日の目を見なかったかもしれない。野中はこの苦い経験を、いまさらのようにかみしめる。

こうして、一人の決断が貴重な資料を救ったころ、中央では 8 月中に当時の金で 97 億円、9 月中に 46 億円の臨時軍事費がばらまかれた。まだ納入されていない品や未成品までもが支払われる大盤振る舞いで、国民の汗と涙の金がむなしく使われた。

柳本見一著『激動二十年』pp.45-46（毎日新聞西部本社　昭和 40 年、北九州・福岡県）

【アーキビストの散歩道】懐かしの WAI【西海岸アーカイブ研修会】

久しぶりに SAA のお知らせメールを見ていたら、第 30 回西海岸アーカイブ研修会 Western Archives Institute のお知らせが出ていた。この研修会はカリフォルニア州公文書館とカリフォルニア・アーキビスト協会の共催で、今年の会場はサンタ・クララ大学だそうだ。

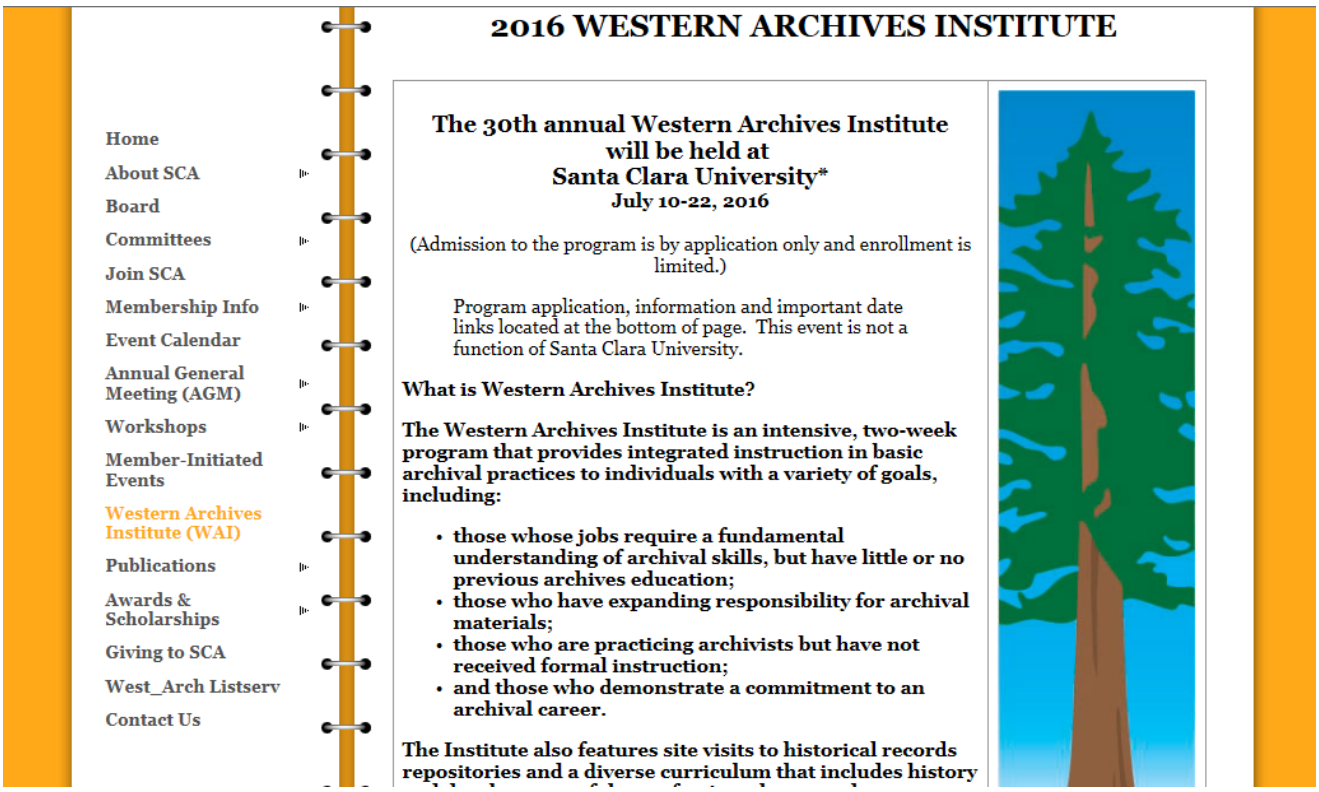
そうか。この第 1 回に参加したのは 1987 年の夏だった。当時私は国立公文書館の非常勤職員。なので有給休暇ではなく、無休欠勤で 2 週間ばかり休んで、UCLA で開催された第 1 回西海岸アーカイブ研修会に参加した。学内の学生寮に泊まり込んでいた。

思い出すとあの 2 週間、なかなかハードだった。USC(米合衆国法令)とか CFR(米国連邦規則集)とかいう法令集を読んだり、映画のアーカイブの話、アーカイブの経営の話、コンピュータの話などなど、アーカイブにかかわりそうなあらゆる側面について、一流の先生がやってきては話をしてくれた。ロサンゼルス市立図書館の火災とその後の復旧の経験談は、図書館長という素敵な女性から聞いた。どのテーマも、わかるところも、わからないところもあって、それがまた面白かった。時にはあまりにもわからないことばかりで、授業中に腹痛を覚えたこともあった。

ディズニー・スタジオの見学、ハンチントン・ライブラリーの見学は印象に残っている。ロサンゼルス公共図書館の火事とその復旧の経験を講じた図書館長の話は、周辺の仲間の評価がとても高かったのに、筆者にはあまりピンとこなかったことも思い出に残る。懐かしさばかりが先に立つが、アーカイブの世界の幅広さを知ったのはたぶんこの時のプログラムだったのだろう。

UCLA の屋外プールで休日の午後のひと時を楽しんだことや、毎朝ジョギングしてたことなどが記憶によみがえってきた。懇親会があったけど、特段の開会あいさつもなく、いつの間にか始まり、いつの間にか終わったので結構びっくりだった。

今回は David　Gracy　II の名前が教授陣の中にある。行ってみたいと思うが、日程が 7 月中旬 10 日間なので、日本はまだ学期中。残念。



2016 WESTERN ARCHIVES INSTITUTE

Home
About SCA
Board
Committees
Join SCA
Membership Info
Event Calendar
Annual General Meeting (AGM)
Workshops
Member-Initiated Events
Western Archives Institute (WAI)
Publications
Awards & Scholarships
Giving to SCA
West_Arch Listserv
Contact Us

The 30th annual Western Archives Institute will be held at Santa Clara University*
July 10-22, 2016

(Admission to the program is by application only and enrollment is limited.)

Program application, information and important date links located at the bottom of page. This event is not a function of Santa Clara University.

What is Western Archives Institute?

The Western Archives Institute is an intensive, two-week program that provides integrated instruction in basic archival practices to individuals with a variety of goals, including:

- **those whose jobs require a fundamental understanding of archival skills, but have little or no previous archives education;**
- **those who have expanding responsibility for archival materials;**
- **those who are practicing archivists but have not received formal instruction;**
- **and those who demonstrate a commitment to an archival career.**

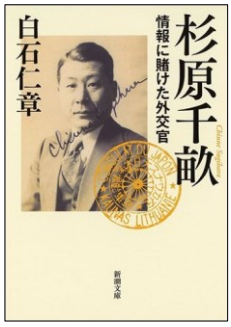
The Institute also features site visits to historical records repositories and a diverse curriculum that includes history

WAI の参加費は 700＄、期間中の宿舎（食事付）1500$位。
詳しい情報は、こちらをご確認ください。　http://www.calarchivists.org/WAI　（小川千代子）

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆›●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

●白石仁章『杉原千畝　情報に賭けた外交官』

年末にみた映画に触発されて購入。本を手に取って初めて著者白石氏が外務省外交史料館の白石さんだと理解した。アーカイブの人が勤務先のアーカイブ資料をふんだんに使って「杉原千畝の素顔を見事に復刻」、「”外務省のトレジャー・ハンター“が突き止めた「命のヴィザ」の真実。」(共にオビ)は、読み応えがある。著者の謝辞先に筆者旧知の人物が登場したり、史料館の書庫で資料を探訪する著者の姿が垣間見えるなど、本来のテーマとは離れてもなお、アーカイブ、アーキビストによる著作であるところに興味は尽きない。**新潮文庫**　326ｐ.550 円＋税



●神奈川新聞「時代の正体」取材班編『時代の正体　権力はかくも暴走する』

最近筆者は市民として行動することを自分の義務にしている。その行動の中で、結局これは 2 冊購入した。たぶん、この副題への共感が 2 冊購入に結び付いていったのだと思う。最初は通販で、次のは行動として出かけた先でてにとった。

新聞記事を取りまとめた図書なので、とっつきやすく読みやすくできている反面、目次とかタイトル文字が「ヤワ」な印象がある。そんなことを感じる自分が結構活字人間であることを知った。

その目次から章建てだけ紹介しよう。

１「安全保障」の暴走　２抑圧の海－米軍基地を問う　３兵とスピーチの街で　４戦後 70 年－扇動と欺瞞の時代に　５熱狂なきファシズム

最後におかれた「熱狂なきファシズム」のタイトルが、筆者の不安をあおる。今、自分が置かれている社会状況はファシズムなのか、しかも知らない間におかれてるのか。。。　自分でよく見て考えていかなければ、そういうことさえも見落としてしまうような社会が、今日の世界なのか。アーカイブなんかやってる場合なんだろうか。。。結構な焦燥感を駆り立てられる一冊。

現代思潮新社　263ｐ.　1600 円＋税

●高橋源一郎『僕らの民主主義なんだぜ』

これも、市民行動で購入した一冊。オビにもあるとおり、朝日新聞論壇時評 2011.4.28 から 2015.3.26 までの連載を収録、書籍化した一冊。上記『時代の正体』と同じく、新聞掲載の文章だから、読みやすい。読みやすいということは、わかりやすいということであり、共感を得やすいということにつながる。そこんとこがいい。こんなことを考えるのは、日頃、こういうわかりやすい文章に接する機会が実は少ないのかもしれない。アーカイブ世界って、わかりにくいのが当たり前なのか。ともかく、これから読んでみよう。朝日新書 514,朝日新聞社 255ｐ　780 円＋税

■国立公文書館企画展「生まれた。育てた。―母子保健のあゆみ―」

この企画展、昨年夏に「ばあちゃん」になったばかりの筆者には興味深いものであった。昭和 20 年代の赤ちゃんコンクールの雑誌記事とか、昭和 10 年代の「うめよ増やせよ」の政策(このころは妊娠中絶は禁止されていたらしい)を記した文書とか、自分の子育て期に使っていたのと同じバージョンの母子手帳とか、どれも自らの日常生活の思い出につながるところがあったためだと思う。これまではアーカイブの展示はともすれば難しい、マニアックの印象が強かったが、今回は子育てというだれにも身近なテーマの企画であったところに、強く親しみを覚えた。折から「保育園落ちたの私だ！日本死ね！」という待機児童問題が話題になった時期だったが、この展示の入場者数はどれくらいだったのかが気になるところだ。

●千代子のあしあと●◆▼●◆›●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート　No.105 2016 年 3 月 31 日 up、6 頁、PDF　国際資料研究所 www.djichiiyoko.com

▼RMSJ ニュースレター 1 月号 No.73　年頭ご挨拶／歴研シンポジウム配布資料提供／東北大震災アーカイブ国際シンポジウム参加記(本誌にも掲載済)

◆研究ノート「軍隊と情報公開」『藤女子大学文学部紀要』第 53 号 p.57-63　2016.2.10

◇◆◇アーキビストの消息(順不同)◇◆◇【凡例：●個人■機関】

訃報　石原　一則氏(63)　3月8日食道がんのため逝去。本人の希望で葬儀は行わず家族・近親者で火葬式挙行。日本アーカイブズ学会会長、 学習院大学大学院人文科学研究科非常勤講師、元神奈川県公文書館勤務。元公文書管理委員会委員。92年NARA見学、96年ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ・ﾏﾚｰｼｱNA見学を共にした。全史料協運営委員会活動も共にあった。ご冥福をお祈り申し上げます。

DJI国際資料研究所の主な活動　2016年1月1日～2016年3月20日

＜執筆＞
・『DJI レポート』No.105 20160401 発行 4 頁 www.djichiiyoko.com に PDF 掲載
・『RMSJ Newsletter』No.73 新年ご挨拶
＜講演＞
4月 7 日　記録管理からアーカイブへ　東京雑学大学 西東京市　東京
＜出講＞
1月13日　鶴見大学「記録管理論」神奈川
1月9,23,30日　藤女子大学図書館情報学課程「情報資源組織論」札幌
1月5,12,19,26日、2月2,9日　東京学芸大学「博物館資料保存論」、東京
＜見学＞
1月2日　箱根駅伝往路、藤沢市浜見山付近、神奈川県
1月8日、27日　メモリアル・ライブラリー、札幌グランドホテル
1月25日、3月1日　国立公文書館企画展「生まれた。育てた。―母子保健のあゆみ―」　東京
1月27日　北海道立文書館展示室　札幌
1月28日　ニッカウィスキー工場、余市、日本銀行金融資料館　小樽
2月24日　東京都公文書館　記録管理学会例会+懇親会、二子玉川、東京
3月20日 箱根関所資料館 神奈川県　w/ベラとイヴォ
＜参加＞
11月 25日　日本銀行貨幣博物館見学会、図書館サポートフォーラム例会　東京＜前号脱落のためここに収録＞
1月11日　震災アーカイブ国際シンポジウム、東北大学災害科学国際研究所＋国立国会図書館共催、東北大学災害科学国際研究所棟1階、仙台
1月16日　東大アーカイブの世界女子会、池袋
1月22日　千種台39会札幌支部会、札幌
1月26日　ND講演会【「外交のしくみを紐解く」安保・原発・TPP・沖縄基地と日米関係の実像】　文京シビックホール、東京
2月4日　寒川文書館運営審議会、寒川総合図書館、神奈川県寒川町
2月5日　全史料協関東部会例会、板橋区公文書館、東京
2月6日　千種台39会新年会 謝朋殿、新宿
2月7日　村田要健康塾　中野、東京
2月11日　どんぐり山保育園園舎新築記念式　東京練馬
2月19日　全史料協役員会、埼玉県立文書館、埼玉県
2月21日　映画を見る会 小熊英二監督「首相官邸の前で」茅ヶ崎市市民センター
3月1日　アーカイブズ関係機関協議会、国立公文書館
3月10日 松本市文書館運営協議会,松本市文書館,長野県
3月11日　雛の会　札幌
3月12日　多恵子さんお見舞い　T大学O病院
3月16日　手稿譜コレクション公開によせて~林光レクチャーコンサート～　国立国会図書館、東京
3月21日　ベラとイヴォ歓迎夕食会　新宿
＜主催＞
1月8日　ドーナツの会 藤女子大学＋ネパールのカレー屋さん 札幌
1月14日 2月24日 記録管理学会理事会、八雲クラブ
1月29日　みずがめ座女子誕生会　ネパールのカレー屋さん、札幌
＜その他＞
2月28－29日　箱根・対岳荘で静養　神奈川県
3月15日　総がかり行動　藤沢
3月18日　かりん　小学校卒業！

■巻末随想　札幌グランドホテルのメモリアル・ライブラリー

○1 月、札幌グランドホテルのメモリアル・ライブラリーに立ち寄った。2000 年 11 月 30 日、初めてこのホテルに投宿したときに見つけた、お気に入りのコーナー。ライブラリーと、ホテルの歴史資料展示と、その向こう側にはパソコンやコピー機を備えるビジネスセンターがある。2 つの建物を通路の片側がこのライブラリーだ。とはいえ長年このホテルの常連だという知人でさえ「へぇ、そんなところがあったかなぁ」というぐらいだから、知る人ぞ知る密やかな佇まいなのだろう。
○展示ケースには、レストランの食器やメニュー、このホテルにやってきた内外の著名人の写真、職員研修用のテキストなどが収められている。MLA などと断るまでもなく、これぞ図書館、博物館、そしてグランドホテルのアーカイブの機能をすべて網羅している。しかも、ビジネスセンターがあるから、現用記録の作成にも手が届く。というわけで、これは筆者お気に入りのホテル・アーカイブ。教えたくないけど、知っていることを自慢したくなるような、小規模な企業史料館というべきか。グランドホテルの伝統と格式とその情報蓄積の厚みを控えめに、でもしっかりと見せているのがとてもいい。(ち)

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 電←電子バージョンのマーク！ ISSN 1342－632X
DJIレポート　DJIホームページ: http://www.djichiiyoko.com　No.105　20160320
発行所：国際資料研究所 Documenting Japan International Email:djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3－8－24 fax+ phone 0466－31－5061　DJIBlog: http://djiarchiv.exblog.jp